「家庭ごみの収集について、有料袋制を導入しないことを求める請願」に対する賛成討論を行います。

宇治市第3次ごみ処理基本計画素案の「ごみ収集における有料袋制の導入」は、ごみ減量化に効果があるかどうかまったく不鮮明です。本日の請願審査の中でも、市はそのことを明確に説明することができませんでした。

それだけではなく、これまで市民がごみの分別に努力し、生ごみの水切りや買い物時のマイバック持参など減量化に取り組んできたことに対する敬意や信頼が欠けたものでもあります。ごみの減量化をはじめ、環境保全の取り組みは、生活スタイルの改善を含め、市と市民、事業者などが互いの努力と協力してこそ進められるものです。無料だから無自覚にごみを出す、有料にするとごみ減量に真剣になるだろうという考えは、行政側の一方的で根拠の希薄な理屈です。そうした姿勢は市民と行政の信頼関係を壊すものです。

家庭用のごみ収集を有料にしたまちでは、家庭用ごみの不法投棄が増えています。単身者など、わずかなごみに有料袋を使うのを嫌って、スーパーやマンションのごみ置き場にこっそり持ち込む、隣の町内の収集場所に出すという例もあるそうです。市民理解をえれない有料ごみ袋制が、市民生活に混乱を持ち込むことになっているのです。

市がごみ袋の有料制の理由としてあげている「新たな財源の確保」は、まったくの筋違いです。全国の自治体財政が窮屈になっているのは、政府による大企業と東京ばかりに富が集中する政策が主な原因です。市民に責任があるわけではありません。本当の地方振興、中小企業への応援、福祉施策への政府支出金の増額、地方交付税の増額などの実施こそが、財政改善の道です。それなのに宇治市は財政難だとして、なりふり構わぬ公共料金の値上げ、市民サービスの切り捨てをすすめ、さらにあらたな有料化を実施しようとしています。このことは、市民の実質賃金が低下するというなかで、行政の都合で市民に負担を押し付けるという点で大問題です。市民の家計も財政難に苦しんでいるのです。

さらに、財政難だといいながら、太閤堤跡の歴史公園に８８億円など、不要不急の大型公共事業には巨額の税金をつぎ込もうとしています。「財政難だから」という理由は、とうてい市民の理解を得ることができないものです。

これらのことは、宇治市が実施した第3次ごみ処理基本計画素案へのパブリックコメントにもはっきりと表れています。有料ごみ袋に関する意見を述べた方は８８件あり、そのうち反対意見が84件、実に95％の方が反対だと言っているのです。市民意見を聴取して計画作成に反映させるというパブリックコメントの趣旨からしても有料袋制はやめるべきです。

本請願は、ごみ処理基本計画素案の検討に請願というかたちで参加し、「有料ごみ袋制の導入を検討」となっているのを削除して下さいというものです。

請願人の説明、答弁は、市民の率直な意見と感情を反映したものであり、市民の声を行政に届けるという議会の役割からみても、本請願に賛成して採択すべきものだと考えます。